

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で、その方の能力・素質を十分に探り、生き生きとその方らしく生活して頂ける様、又挨拶で始まり、挨拶で終わる笑顔と心のゆとりを持って過ごせる様理念を作り上げている。	○ 住み慣れた地域社会や御家族と交流を持ちながら、ご利用者の思い・希望を受け止め、心豊かで安らかな尊厳のある生活を支援していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は、介護員室に貼ってあり朝礼時に唱和、理念を共有し日々努力している。又、グループホームとしての理念はホールに貼ってあり、ご利用者・御家族・地域の人々に常に見て頂ける様心掛けている。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年6回の運営推進委員会、年2回の御家族懇談会、毎月のうらら便り、ボランティアさんとの交流、年4回発行のうらら広報誌を通し、理解を得る様にしている。	○ 御家族懇談会、毎月渡すうらら便りを通して、行事やご利用者の生活振り・状況をお伝えしているが、継続していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所が遠く、中々付き合いが出来ないが、ゴミ捨てや散歩で出会った時は、挨拶したりお声掛けをしている。	○ 三棟ある為、その特性を活かし、一つの自治会といった雰囲気の中で、食料の分配や回覧板、親しい人の所へ遊びに行くといった形で、一棟だけでなく他棟のご利用者とも交流を図っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町役場主催の講話、公民館祭り、地域の幼稚園・保育園行事に参加させて頂き、保育園の園児さん達が来荘して下さっている。又、交番へ定期的にご利用者名簿を持って挨拶に伺っている。	○ 社協ボランティア・シルバー大学のボランティアさんが来荘下さっているが、今後も地域の方々のコミュニケーションも図っていききたい。又、地域の行事活動にも参加していきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中で話し合いがされたり、職員間でも話し合いを持っている。キャラバンメイト養成研修等にも参加している。</p>	○	<p>地域の高齢者等の暮らしに役立っていききたい。又、地域の方々にグループホームの理解を得ていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員が意義を理解し、前年度指摘された部分を改善できる事は委員会活動等の中で取り組んだり、本部でも協力出来ることは協力してくれている。</p>	○	<p>全職員が周知し、評価を活かし委員会活動、内部研修の開催、運営推進会議等を通し改善に取り組みたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>生活の状況、サービス内容実施の報告をさせて頂き、職員は交代で会議に参加している。又、月1回の職員会議で報告し、議事録を回覧で回す事で全職員が周知し、サービスの向上に努めている。</p>	○	<p>利用者を1名から2名に増やし、意見を述べてもらい評価も頂いている。20年度11月より、ご家族を2名に増員。新たな意見も聞き、サービスの質の向上へとつなげたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>あまり機会がないが、研修の情報・提供等協力下さる。又、今年度も家族参加行事に参加頂く予定。</p>	○	<p>今後も行き来する機会を作り、相談・指導を仰いでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>身内関係が希薄な方など、生涯安心して暮らして頂けるよう活用している。又、常にパンフレットを備えている。</p>	○	<p>研修・勉強会に参加して、内部研修を開催。全職員の知識を高めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>接遇改善委員会（全施設）で話し合ったり、ホーム内でも話し合いが持たれている。特に夜間業務においては、職員1人接遇改善委員会を配置している。</p>	○	<p>継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの際にも、不安・疑問点・悩み等をお聞きして、説明し理解を図っている。更に、契約時、契約書・重要事項説明書でも説明し、理解を得ている。又、同時に退所指導も行い、ご家族が納得出来るまで、話し合いを行っている。	○	入所申し込み後も、悩み・疑問点がある場合随時面接を行い、傾聴・相談を行い、理解を図っていききたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリングやケアプランの見直しの際、意見・不適・苦情が言えるような雰囲気作りをし、話し合いを設けたり、日々のお茶のお持て成し時等にも意見・話が出来るようにしている。又、アンケート、御家族集会を開き、反映出来る意見は取り上げている。	○	特にコミュニケーションが図れない時は、ホーム長とお茶を飲み、言いやすい雰囲気作りを工夫し、意見も聞くようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のうらら便りで、各自の生活・健康状態報告をしている。又、うらら広報紙でも、生活振りや職員の異動等も報告し、3ヶ月毎に預かり金台帳のコピーを渡している。随時欲しい御家族には、その都度渡している。	○	20年度より、報告書としてうらら便りをご家族へ月1回配布し、健康状態の理解を図っている。継続していききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランモニタリング時、来荘時に不満・苦情等相談しやすい雰囲気を作り、苦情の際は早急にリーダーを中心に対応出来る体制作りを行っている。又、御家族懇談会にも機会を設けている。	○	懇談会等でも、ご家族との信頼関係を構築出来る様努めており、苦情の際、情報を早急に収集しコミュニケーションを図り、早急に対応出来る体制を築いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、接遇改善委員会、食事研究会、職員会議で職員の困り事、意見・改善点を取り上げている。反映出来る意見を参考にして実施している。		会議等で本部、副理事長・施設長・栄養士が出席。本部がうらら全体を把握し、理解を図る様に取り組んでいる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者のADLの低下、不穏時、行事、ご家族の要望時等通常体制では不都合がある場合には、随時職員の確保・勤務調整に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は極力抑えてはいるが、職員間の問題や職員とご利用者との問題が発生した時等、又、職員の勉強の為に異動はあるが年1～2回。離職願いがあある場合、よく話し合いを行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していきたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人は新人向けのマニュアルに添って対応。職員各種研修(段階に応じて)、県実践リーダー研修、管理者研修を受講する機会を与えている。又、各自個人的な資格取得の講習会等の機会を全員に与えている。</p>	<p>○</p> <p>全職員に機会を与え、レベルアップに努めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>あまり交流する機会がないが、各種研修で来荘された施設との交流を通じ、情報を得たりサービスの質の向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>各種の飲食会や慰安会、行事等のご苦労様会の食事会を行っている。又、研修受講や随時カンファレンスを開催したり、個人で話しを聞いたりしてコミュニケーションを図ったり、棟の異動を行い軽減している。</p>	<p>○</p> <p>ストレスに対する研修に参加。受講職員は内部研修も開催出来る様努めている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格・特技・趣味を活かし、委員会活動やレクリエーション、リハビリ等で活動してもらっている。又、各自資格を取得する為のセミナー参加には時間調整をし、協力しているし他職員にも協力を仰いでいる。</p>	<p>○</p> <p>更に、資格取得するセミナー等に受講出来る様協力を仰いでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み相談を受けてから、定期的に現状の確認、意思の確認をさせて頂く機会を作り、コミュニケーションを図っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	定期的に連絡を取って、相談を受けている。又、随時連絡・困り事受けている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、対応しており状況により他サービスの情報提供も行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅に訪問させて頂いたり、本人が安心して利用出来る様見学に来て頂いたり、1日体験をして頂いたりしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の目線に合わせ、ゆとりを持って相手と接すると共に、生活の知恵を授けて頂いている。又、職員が自分の悩みを相談すると、1人の人生の先輩として助言下さる。	○ 認知症でも過去の経験、生活の知恵等は忘れていないので、ご利用者から学び取り支えあう関係も築いていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、職員の方から積極的にお声を掛けるようにしており、お互い話しやすい状況を作っていく努力をしながら、情報提供・連携をはかっている。		うらら便りによる現況報告。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族が気軽に来棟出来る様、コミュニケーションを取っている。又、ご利用者の誕生日に食事会を設け、家族に参加して頂く等御家族参加の行事を増やし、ご利用者と家族のより良い関係が持てる様支援している。	○	御家族参加の行事、懇談会等継続して実施したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会の対応、利用者の家族による馴染みの方の面会依頼を行っている。又、受診・外出時等に昔家族と出掛けた場所へ出掛けて頂いている。	○	どんどん外へ出る機会を設けて行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人1人の性格を理解した上で、クラブ・レクリエーション活動で交流を持ち、皆の仲間に入りやすいよう声掛けをし、お手伝いなどを通し助け合いながら生活して頂いている。	○	孤立しがちな入居には、職員が声掛けをして皆の仲間に入りやすいようにしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、他施設に入居されても職員が遊びに行ったり、ご様子を伺いに行ったり、本人や家族が遊びに来荘されたりして付き合いを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅で愛用していた家具・仏具等を持ち込んだり、御家族との写真を飾って頂き、各個人に合った空間作りをしている。又、何事においても強制はしない。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェースシート、またご家族からの情報収集、ご利用者の話を基にサービス担当者会議にて職員は把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の意志を尊重し、自由な時間に読書や手芸・音楽鑑賞・TV鑑賞・散策など趣味を楽しんで頂いたり、休みたい時に休んで頂き、1人1人の過ごし方を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回、ケアマネージャー・居室担当者・ご利用者・御家族との話しあいにて、介護計画を作成している。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行っている。又、変化があった場合、すぐにカンファレンスを開き新たな介護計画を作成している。	○
			今年度よりセンター方式を導入し、ケアプランを作成している。 3ヶ月に1回モニタリングを実施。ご利用者・御家族の意向聞きニーズに沿ったプランを作成出来る様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、各個人の経過記録に特徴や変化を時間を追って詳細に記録し、情報を共有している。又、ケアプランニーズに合わせたサービスも記入し、チェックを行うことで見直しに活かしている。	○	職員以外の誰が見ても内容がわかる様、専門用語を使うことを止め、記録の簡潔化に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所としては、現在長期入所しか行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社協・傾聴・各種ボランティアによるクラブ活動の指導。消防訓練への協力、幼稚園の運動会・お遊戯会招待。保育園児・学童児の来荘。又、地域交番の訪問等々を行い協力をして頂いている。	○	地域の行事等出来るだけ、積極的に参加していきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・御家族の意向や希望により、必要に応じてヘルパー・家政婦協会等を利用している御家族もいる。又、情報の収集・提供の支援も行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身内の関係が希薄な方や、希望に応じて「あすてらす」を利用して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	Drとの連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援したい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ハード的な物、介護面で支障がない限りは支援続けていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	かかり付け医院・ご家族とも十分連携を図り、誤解が生じないように対応、支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先を検討する際、必ず家族と職員も下見をし、本人及び御家族の意向に添うものか検討し、相談している。又、当施設に入居頂く場合も事前に見学して頂き、今迄使用されていた家具・思い出の品など持参願っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇改善委員会にて月毎に接遇の目標を決め、朝礼時に唱和を実施しており、職員の意識向上を図っている。又、接遇に対する内部研修・月1回委員会が開催され、反省・評価等法人全体で取り組んでいる。記録等は外部に見えない様に保管している。	○	職員のレベルアップの為にも、継続していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のニーズを傾聴し、どのような事を実施したいのかをわかりやすく説明し納得出来るまで話し合いをする。自分で決断出来ない時は、ご家族に話しをしてもらい、本人らしく暮らして頂ける様支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等の時間は、日課となっておりますが日々の状態、本人の希望に合わせてゆとりある生活を尊重している。	○	今後も更に1人1人その人らしいゆとりある生活を支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人所有以外にも、各棟化粧道具を揃えており自由に使用されている。又、行事や外出の際、衣類のコーディネートの相談に応じたり、理美容の依頼を受けた時は、家族に連絡を取っている。移動美容室も御家族依頼時使用している。	○	馴染みの地域の美容室にかかれる様、御家族懇談会等にお声掛けしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	前年度より、おやつ等もご利用者の希望に合わせてお出ししている。行事食等も同様にしたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	<p>個人対応は特定の利用者に限られることが多いので今後は全てのご利用者に対応していきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に鍵をかけないケアを実施しているが、身体的に危険が伴う場合のみご家族に了解を得て、かけるようにしている。夜間は職員1人の為、鍵をかけ対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ず1人はホール内で待機をし、ご利用者のみにはしない。又、居室で過ごされる事が多いご利用者へは、プライバシーを配慮しつつ、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家族・ご利用者の方々に同意書を頂いており、薬や洗剤・刃物・針等を職員が預かり、見守りの中使用して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書を活用し、回覧により全職員が周知し、知識を共有している。又、研修会・勉強会に参加した職員が研修委員会と協力して、内部研修を開催。知識向上を図っている。	○	緊急時用に利用者名簿を作成し、交番・隣接施設に配布している。(無断外荘時に使用)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを熟知し、緊急事態に対応出来るようにしている。又、緊急時に素早く対応出来るようにマニュアルを常に定位置に設置してある。夜間緊急時対応職員も決めており、勤務表にも記している。	○	マニュアルだけでなく、訓練も定期的に行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火加工カーテン・マットを使用したり、隣接施設と連携を図り、定期的に避難訓練を行い、地元の消防署の協力も得られている。	○	地域の協力も得られるよう、平日頃より関わりを持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>服薬は、複数の職員で確認し誤配の予防に努めている。又、内服時、薬のみ手渡しし服用を確認している。今後も、事故防止等に努めていきたい。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>状態により、薬用ハミガキ粉等の購入も職員対応にて行っている。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを作成し、皆で共有する事で手洗い・うがいの徹底に努め、換気・加湿器での湿度調整、布団乾燥等を実行している。又、インフルエンザの予防接種・血液検査等も実施している。	○	
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食後、布巾・まな板等漂白や日光消毒を実施している。冷蔵庫・食品棚は、夜間帯で清掃し、整理している。食材は使用に合わせて、毎朝業者から配送される。食中毒についても、毎食検食を取り、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の入り口には、感じ良い表札が掛かっており建物の周りや、玄関周囲には四季折々に丈の短い草花、花の咲く植物、野菜苗等を植栽し、楽しみ・ホッとされ、安心して出入りできるようにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホール・廊下には季節にあった手工芸品、花や写真・絵画等を飾っている。台所、トイレの窓にはカフェカーテンがしてある。又、壁のブラケットの間接照明が心地良い様に設計されている。ロールカーテン・ホールのソファ・食堂の椅子の色も茜のイメージカラーで統一されている。玄関には金魚の水槽が設置してある。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、TV・CDカセット・ビデオが設置され、茜のイメージカラーのソファに座り、ご利用者はTVやビデオ・音楽鑑賞、お茶や談話を楽しまれている。又、足裏マッサージ等も希望者には行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>ポータブルトイレ使用の方は、使用毎に洗浄を行っている。また、消臭剤の使用により、より快適に過ごして頂ける様配慮している。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・全職員が接遇の心得を大切に、トータルで良質な介護・笑顔がたえない明るいホームを目指す為、職員同士が注意し合える職場作りを実施
- ・御家族懇談会、うらら便り、職員紹介掲示板等により、御家族への安心感と信頼関係を構築し、ご利用者の現状に即したご利用者本意の介護計画に基づくサービスの提供
- ・継続的なクラブ活動、リハビリの充実を図り、満足感・達成感を引き出し生活の意欲向上を図ると共にADLの低下防止に努める
- ・地域のボランティアさんの受入れ、定期的な運営推進会議開催、地域の行事等に参加し、グループホームへの理解を図っている